

上関の現状を正しく理解し、 町の将来を考えよう！

4月25日、上関町青壮年連絡協議会（以下「青壮協」）主催の勉強会が、青壮協メンバー8名と上関町議会議員4名の参加により開催されました。

議員から上関町の予算編成の概要や人口推移・将来推計の説明を受けた後、参加者全員で意見交換を行い、「上関町民は他の自治体に比べ医療・生活福祉等で充実した行政サービスを受けているが今後も維持できるのか」、「行政サービスが維持できなくなると若い人は上関町を離れていってしまう」、「町民に財政逼迫等の状況を訴えていくことが大事ではないか」といった活発な話し合いが行われ、今後のまちづくり活動につながる有意義な会となりました。

（要旨…文責編集部）

開会あいさつ

今日の勉強会



上関町青壮年連絡協議会
会長 守友 誠

動に活かそうということで開催いたしました。

先日、消滅可能性自治体について報じられていましたが、上関町もその中に含まれており、現在も人口減少に歯止めがかからない状況の中、転出者が転入者を上回る「社会減」対策が重要とされるなど、もはや危機的な状況にあると言っても過言ではありません。

私たちの大切なふるさと上関町を、町民の皆さんや町議の皆さん、上関町に関わる方々とも力を合わせて守っていききたいと思っています。

岩木議長あいさつ

町における少子高齢化、人口減少の中での令和6年度の予算編成は大変難しいものでした。西町長は「行政サービスを低下させてはいけない」との思いを持っておられ、町長をはじめ町執行部には大変なご苦労があったと思います。

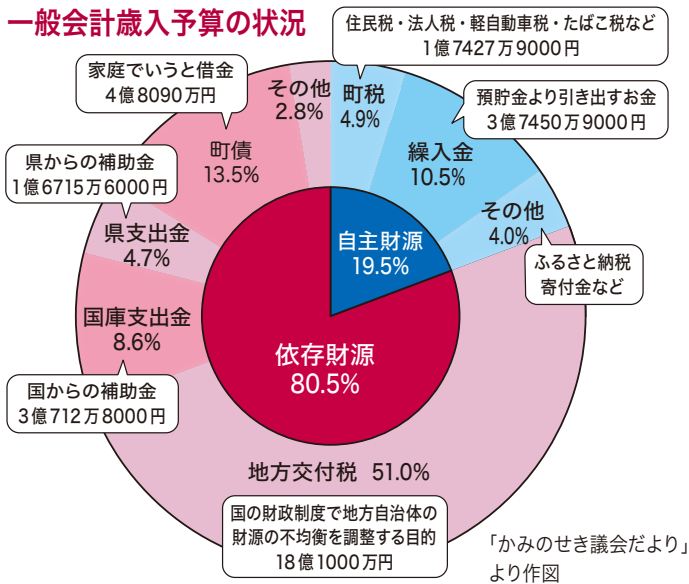
議会においても、町財政の改善に向けた地域振興策について、これまで6回程議論してきましたが、一定規模の財源確保につながる有効な施策を見出せていません。一方で、「町民は町財政について不安に感じていないのではないか」との意見もいただいております。本日このような機会をいただき大変感謝しています。皆さんとさまざまな意見交換をさせていただき、より良い上関町をつくっていききたいと考えます。

上関町の現状と今後の見通し（説明） 上関町の財政状況

●令和6年度の予算編成について、一般会計当初予算は35億5千2百万円です。そのうち自主財源である町税は約1億7千万円で、予算全体の5%もありません。寄附金や基金を繰り入れた自主財源全体でも予算の20%に満たない状況です。これは町が独自に使えるお金が少ないということです。

●町の歳入の80%以上は依存財源が占めており、その多くが地方交付税です。これは主に人口に比例して交付されるため、町の人口が減ればその分減額されます。今は18億1千万円ですが、「上関町人口ビジョン」（令和2年度版）では、

一般会計歳入予算の状況



上関町の人口は令和27年度に912人になると予測されており、人口減に伴い、地方交付税も大幅に減額されるものと思われる。

町の歳入が減れば行政サービスの低下につながります。国からの交付金や基金は使途が決まっているものも多いため、町としては自由に使える町税などの自主財源が多いに越したことはないのです。

●町の貯金とも言える基金は、さまざまなものを合わせて約28億円あります。実際に使えるのは公共施設建設基金、財政調整基金などで約14億円です。今年度はこれらを2億円超取り崩す予定であり、このペースが続くと基金が底をつくのも遠くありません。

また借金にあたる町債は約45億円あり、自主財源がなければ膨らんでいく一方です。

●町の一般財源規模を示す目安として「標準財政規模」があります。これは人口など、さまざまなものを勘案し、そ

の町の財政規模がどれくらいになるかを表す数字ですが、上関町の令和4年度の数値は約19億円です。現在の予算規模は約35億円ですから、ずいぶん無理をしていることになります。

中間貯蔵施設による 財源確保

●使用済燃料中間貯蔵施設（以下、「中間貯蔵施設」）に伴う国からの交付金のうち、電源立地等初期対策交付金相当部分については、制度上は立地可能性調査の着手年度から1年間に最大で1億4千万円が交付されます。

この交付金について上関町では、令和5年度は申請が年度途中だったため7千万円程度の交付となりましたが、令和6年度は現時点で1億3千万円を申請しており、主に教育・医療・社会福祉などの費用に充てられます。また、この交付金はソフト事業にしか使えません、基金として積み立てることができません。

そして今後のこととなりますが、中間貯蔵施設の建設に対して県知事の同意を得た場合、その翌年度から9億8千万円が2年間交付されます。この交付金はハード事業など様々なものを使うことができます。

●ここからは実際に工事に着手した場合の話になりますが、仮に1千トンの使用済燃料を50年間貯蔵した場合、交付金は総額で約300億円となります。いずれの交付金も、町への交付金と同額が県を経由して周辺自治体にも交付されるような制度となっています。その他、中間貯蔵施設の固定資産税による町への税収増も見込めます。

●中間貯蔵施設の建設によって町税はもちろんですが、交付金や固定資産税を活用した地域振興、工事や運用に関連する経済活動の活性化などで、地域経済の振興が期待できます。

【意見交換】

■充実した行政サービス

岩木 ●現状、基金などにより町民の皆さんの生活は他の自治体に比べ、かなり充実していると思います。学校であれば給食費が無料、高校通学の交通費も半額が補助されます。このほか自治会費が3千円の補助、インフルエンザの予防接種も無料となっています。また、中学生まで無料だった医療費が、今年度から高校生まで拡大されます。

青壮協 ●医療費が無料というのは、子どものケガや病気の時など非常にありがたかった。また、子どもが高校に通うのにバス料金の半額補助があつて、すぐ助かりました。

柏田 ●町民の皆さんの多くは、このような施策によって行政サービスが成り立っていることを知らないのではないのでしょうか。

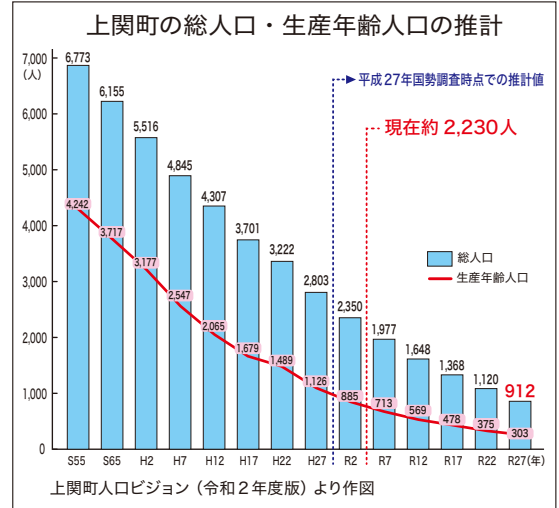
将来的に公債費（借金）の割合が段々と増えてくると、行政サービスを維持することも難しくなっています。また、公債費の比率が高くなつてくると、施策などの事業が町の判断ではできなくなり、国の許可が必要となつてきます。

青壮協 ●今年度の一般会計歳入予算で、基金からの繰入金と町債を合わせて約8億5千万円が充てられています。これが、「財源が厳しい」という上関町の現状なんです。

海下 ●財政状況が厳しい中、町民の皆さんへの負担が増加しないよう、町長は持続可能な町づくりを公約に掲げ、行政サービスの維持に取り組まれています。

青壮協 ●それだけ行政サービスの維持に努めても、人口は減っていくのが問題ですね。

青壮協 ●予算を組むのにお金が足りないということですね。だから、どうにかして不足分を生み出さないと行政サービスが維持できなくなります。



■深刻な人口減少

岩木 ●本日の勉強会で町財政等について知ってもらえたのは大変有難いです。

青壮協 ●人口減少は深刻ですね。令和27年に912人というのはショックです。これで子育て世代への補助をやめたら大変なことになると思います。

柏田 ●やはり20代から50代の年齢層がある程度いないと、町の人口はどんどん減っていく。要は、働く世代がいかにして定住できるかです。働く場所がないとそこに住むことは難しいし、安心して子育てもできません。

だから中間貯蔵施設だけではなく、その先の原子力発電所もしっかり見据えて取り組まないと、人口減少に歯止めがかからないのではないかと思います。

青壮協 ●今後も人口減少が進み、町財政が厳しくなると基金等も年々減少し、それにより行政サービスが維持できなくなると若い人はますます上関町を離れていくから、町の消滅が現実的になると思います。

海下 ●中間貯蔵施設は財政確保の点から必要です。このままでは行政サービスを維持することはできないし、町民の皆さんの負担が大幅に増加します。そのことについて、しっかりと理解してもらうことが大切です。

青壮協 ●「かみのせき議会だより」がありますが、これを見て理解してくれ

ているでしょうか。町民の皆さんへの説明会などの機会が必要ではないでしょうか。

海下 ●私たち議員も町民の皆さんに説明する責任があるし、そういう機会を今後作っていききたいと思っています。

■今後の取り組み

青壮協 ●中間貯蔵施設が浮上してから、友人に「上関町は反対と賛成で意見が割れて大変だね」と言われましたが、私は推進の人が多く感じていました。町長選挙でもそういう結果が出ています。しかし、一緒に活動する若い世代が少なく、今後、どうしていくべきかを悩んでいます。

青壮協 ●青壮協の取り組みを理解してくれている人たちと情報を共有して、地元がしっかりとまればいいんじゃないでしょうか。

柏田 ●地元がしっかりとまることが必要ですが、中間貯蔵施設の計画を進めていくためには、周辺の住民の皆さんにも幅広く理解をしていただく努力も必要だと思います。

この計画は、上関町の財源確保策という一面だけでなく、将来にわたるエネルギー安定供給につながるという国策レベルで非常に意義のある事業です。

自分たちの手で町をきれいに
～青壮協 清掃活動～

5月26日、上関町青壮年連絡協議会のメンバーが中心となって、上関大橋の長島側から道の駅上関海峡の道路沿いなどのゴミ拾いやカーブミラー清掃を行いました。これは「自分たちの町は自分たちできれいにしよう」と毎年実施している清掃活動の一環で行われたものです。

守友誠会長は「これから夏に向けて上関町を訪れる人も増えてくるので『きれいな町だ』と思ってもらえると嬉しい」と言われました。



閉会あいさつ

この点をしっかりと踏まえて仲間づくりをしていかなければならないと思います。

青壮協 ●中間貯蔵施設の先には上関原子力発電所の計画があります。そのためにも、国のエネルギー政策に協力しているという私たちの考え方を、積極的に発信していく必要があると思います。

青壮協 ●先日、柳井市の人と話した時「頑張りたいよ」と言われた。周防大島町でも「しっかりとやりいよ」と励まされました。



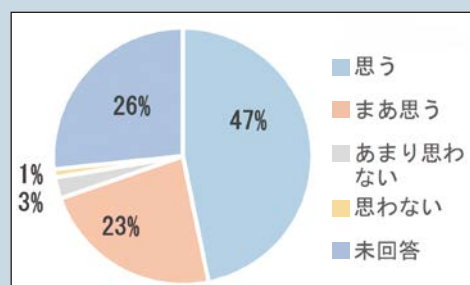
上関町青壮年連絡協議会 副会長 田中 健太

本日は勉強会でも町の財政等について詳しく説明をありがとうございました。上関町の現状等がよく理解できました。議員の皆さん、ありがとうございました。これから勉強会の数を増やしていこうという話が出ていたので、精力的に青壮協の活動を進めていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

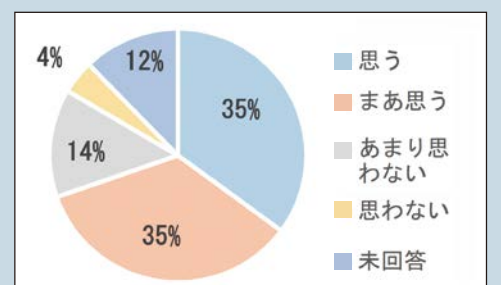
お詫びと訂正

令和6年1月23日に発行した『上関未来通信』正月号(No.45)について、記載漏れ(赤文字部分)がありました。深くお詫び申し上げます。

Q. 今後もこのような講演を聴いてみたいですか。



Q. 本日の講演を聴いて、もっと詳しい話を聞きたいと思いましたか。



●今回の青壮協と議員との勉強会では、町財政が厳しい状況にあることが分かりました。議会だよりや町の広報誌を読むだけでなく、実際に説明を聞き、意見交換することで、より理解が深まったと思います。●また現在、調査検討が進められている中間貯蔵施設が財源確保のための地域振興策として大変重要なものであることが分かりました。●今回は、歳入(収入)の話が主でしたが、今後は、行政サービスのために必要な歳出(支出)などの話や、財政の面だけでなく、これからの町づくりに関する意見交換なども、継続してできればと思っています。●改めて、勉強会へご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。●青壮協のメンバー共々、これからの町づくりに活かしていきたいと思っています。(K)

後記